

します】

平成25年10月2日に、札幌エルプラザにおいて北総研フォーラム「震災をきっかけとして住まいと建築を考える」を開催します。

北総研がこれまで取り組んできた地震被害等に係る研究成果や、自然災害時のさまざまな支援について事例報告を行うとともに、東日本大震災の復興に向けた取り組みや国内外の地震・津波被害から得た教訓を基に、住まい・建築のこれからのあり方について、皆様といっしょに考えます。

さらには、TBS「サンデーモーニング」にレギュラー出演等されている、造園家・岐阜県立森林文化アカデミー学長・東京都市大学教授の涌井史郎氏による特別講演『東日本大震災の復興の階段』も行いますので、多くの方々のお越しをお願いいたします。

日時：平成25年10月2日（水）13：00～17：00

場所：札幌エルプラザ3階ホール（札幌市北区北8条西3丁目）

最新の情報や参加申込書については、北総研ホームページからダウンロードできます。

http://www.nrb.hro.or.jp/131002_Forum.html

（企画課 酒井）

■【道総研 戦略研究の成果が活用された実証住宅の内覧会をおこないます】

平成25年8月18日（日）に現場見学会を行った、道総研戦略研究の成果の一部を活用した実証住宅が完成することに伴い、内覧会を行うこととなりました。

内装材にはカラマツ心持ち正角材の柱やカラマツ材の梁、外装材には道産の杉材を活用し、道産木材の木ぬくもりが感じられる住宅となっていますので、是非内覧会で実感してみてください。

日時：平成25年10月13日（日）から

平成25年10月14日（月）まで

場所：旭川市東旭川上兵村268番地

詳細は、決まり次第ホームページ等でお知らせします。

（企画課 酒井）

=====
トピックス 「地域防災力の向上に関わる北総研の取り組み」
=====

9月1日は「防災の日」です。東日本大震災以来、国や自治体では低頻度ですが一度発生すると大規模な被害の発生する災害、例えば南海トラフの巨大地震

を対象とした防災訓練が行われ、地域では津波を対象とした避難など防災力向上のための訓練が多く行われるようになりました。

当研究所では、自治体と連携しながら「地域に想定される危険な部分」を明らかにするために被害想定の研究や津波避難に関する研究、「安全にするために必要な対策」として建築物防災対策などの研究に取り組んでいます。

こうした成果をもとに今年度は、10月に実施される北海道の総合防災訓練のなかで、地震後の建物安全性を確認するための被災建築物応急危険度判定の技術力向上のための訓練を行い、地元判定士の技術指導を行います。また同月に新ひだか町において地域住民との協働による防災体験学習を実施し、地震に対する地域・住まいの安全を目指した防災力向上に寄与する予定です。

いずれも北総研として関われる地域は振興局毎の事例地域です。

訓練を普及させて本当に防災力を向上させていくためには、地域の住民・技術者が中心となって実施して行けることが大切です。

今後も、低頻度大規模災害の想定や、道の課題である厳寒期の災害発生を想定しながら、地域防災力の向上に繋げて行く調査研究を進めて行きたいと考えています。

(居住科学G 竹内)

=====
研究紹介「北海道沿岸都市の津波防災都市づくりへ向けた基礎的研究」
=====

東日本大震災、また、予期される南海トラフの巨大地震などを背景として、全国の沿岸都市では、巨大津波に強い都市づくりをいかに進めるかが課題となっています。北海道においても、H24.6に津波痕跡調査等に基づき予測される最大クラスの津波による浸水予測図が発表され、道内沿岸都市においてその対応が迫られています。

巨大津波に強い都市づくりへの方策としては、防潮堤や二線堤・三線堤による多重防御で津波を防ぐ、安全な場所への避難により被害を軽減する、被災してもすぐに立ち直る、といったことが重要と考えられます。

北海道の沿岸都市は、予想される浸水域に対して、津波に強い都市になっているでしょうか。本研究では、まずは都市計画市町村を対象として、これらを確認し、課題を検討していきたいと考えています。

(居住科学G 石井)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【シンポジウム「奥尻島津波災害からの復興20年」が開催されました】

去る9月1日に日本建築学会大会（北海道）の記念行事として開催された「創（つくる）・・・奥尻島津波災害からの復興20年」の開催概要は次のとおりです。

参加者は、建築学会員、学生、一般（奥尻町関係者）など約70名です。

シンポジウムの進行は、奥尻島災害復興に関わってきた北総研専門研究員の南慎一が行いました。

第一部は、「災害からまちを創る」をテーマにして、元奥尻町長の鴈原徹氏から「奥尻島災害復興20年を振り返って」と題する講演があり、続いて道立総合研究機構建築研究本部の大柳佳紀企画調整部長から旧道立寒地住宅都市研究所として携わった復興計画の策定支援についての講演がありました。

第二部は、「これからのまちを創る」をテーマにして、町総務課長の竹田彰氏から奥尻島の防災教育の取り組みについて、町水産農林課の横田稔氏から水産業の復興の取り組みについて、株式会社奥尻ワイナリーの菅川仁氏から復興とワイナリーの起業について報告があり、意見交換が行われました。

コメンテーターの兵庫県立大学の室崎益輝特任教授（神戸大学名誉教授）からは、災害復興の評価について、北海道大学大学院の岡田成幸教授からは、個人の生活再建のありかた、災害復興への学会の取り組みについて意見がありました。

最後に会場から陸前高田市で住まいの再建に取り組んでいる武蔵和敏氏から、奥尻島の災害復興を学びたいとの発言がありました。

北総研では、上記のような学会との連携を通して、奥尻島の復興まちづくりに関する情報提供や支援活動のほかに東北地域の災害復興への情報提供や支援活動を引き続き行っていきます。

（居住科学G 南）

■【かみかわ知っ得セミナーを開催しました】

上川管内の道総研3機関（上川農業試験場、林産試験場、北方建築総合研究所）が連携して、身近なテーマで開催する「かみかわ知っ得セミナー」の第1回目を9月10日（火）に実施しました。

お昼の12時5分から、フィール旭川7階の旭川市国際交流センター交流ラウンジにおいて、「初級～上級まで すまいの結露・乾燥対策」と題し、結露と乾燥の原因や、すぐに実践できる初級編から工事を伴う上級編まで、その対策についてお話ししました。

参加した方は、温度が下がると結露が発生しやすくなることや、家に設置されている室内グリルや自然給気口の手入れをきちんとすると換気が良くなり結露や乾燥が押さえられること、また家の気密を高める小規模な工事として窓のガラスだけ交換したり内窓を設置するなどがあることを興味深く聞き入っていました。

次回は10月16日に、同じ会場で「道民なら知っておきたい「じゃがいも」のはなし」と題しまして、上川農業試験場が開催します。

普段何気なく食べているじゃがいもの、意外な話を聞いてみませんか？

事前申込は不要ですので、多くの方の参加をお待ちしております。

合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。
メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：(地独) 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所